



インドブダガヤ坐禅会 ご報告

去る2月4日より1週間にわたり、お釈迦様お悟りの聖地ブダガヤ日本寺



ブダガヤ大塔

にて坐禅会を実施して参りました。以下はブダガヤ滞在日記です。

・2月4日(金) 坐禅会1日目

午前4時30分起床、同5時15分～6時 坐禅 引き続き朝課 6時30分より坐禅 朝課時より日本人女性1名、アメリカ国籍沖縄縄系日本人女性1名。他参加者は日本寺駐在僧4名。

駐在僧の方々と大塔参拝。以前にも増して参拝者多し。ブダガヤ参拝をした方の中には喧騒に不評をもらす方が少なくないが小納はこの喧騒が嫌いでは無い。釈尊成道の聖地に人々が集うのは喜ばしいことであると感ずる次第。

午後4時 午後の部の坐禅。参加者5～6名。坐禅会終了間際にオランダ人夫妻が参加。この方達は最終日まで毎日参加して下さった。

・2月5日(土) 坐禅会2日目

午前4時30分起床、同5時15分～6時 坐禅 引き続き朝課 6時30分より坐禅 朝課時より日本の若者一人参加。他参加者は日本寺駐在僧4名。

午前8時30分 ガヤ山へ登山。ガヤ山は漢訳経典では象頭山(ぞうずせん)と呼ばれ、お釈迦さまが昇火教徒を済度した地として知られる。階段は急で



ガヤ山(象頭山)

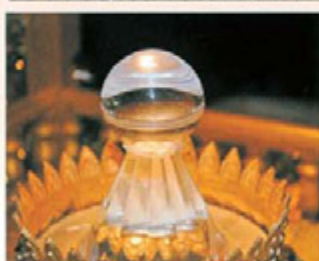
あるが、よく舗装された道であり歩き難いわけでは無い。階段よりも小納の身体に問題あり！身体が短い上に重い！頂上に到着した時には汗だくに。しかし、日本寺の食事は基本的に精進で、長期に滞在すれば小納の身体問題の一方を解決してくれるかもしれない。坐禅と誦経の僧侶らしい生活はすこぶる快適である。

午後3時 マハーボディソサエティの寺院を参拝。目的は仏舎利参拝。なんでも期間限定で参拝させているらしい。小納とミロ師は初日に既に参拝を済ませているが、駐在僧は客僧と一緒に自由な行動が出来ないようでお付き合ひ申し上げる。しかし、3時の参拝時間に到着すると、参拝時間が4時から変更になったという。なんでも予想よりも参拝者が少ないという理由らしい。一同困惑、4時は午後の坐禅が始まる時間である。ガードマンに直接、僧侶と交渉してくれと言われ、駐在僧の加藤師がお願いすると、なんと我々だけ早目にお堂に入れてくれるという。さ

すが！インドはすべてにおいて交渉次第！願ってもないことで、喜び勇みお堂に入ると、さらに光栄なことがあった。なんと、仏舎利を普段安置している仏像の台座から、堂内中央に準備された台に運ぶ役を命じられる。小納始め3名の日本人僧侶は、頭に座布団を乗せられ、その座布団に豪華に荘厳された舍利容器を載せて、緊張しつつ中央の台へ！お釈迦様の遺骨を頭に乗せたのは日本人ではそう多くは無い筈である。舍利容器が三体有り、お釈迦様、



仏舎利を頭に載せて



仏舎利

舍利弗尊者、目連尊者のご遺骨とのこと。小納が運んだのはお釈迦様の舍利でありました。

午後4時から午後の坐禅。昨日と同じスケジュール。しかし、今晩は出入りが多く数は定かでないものの、大勢の方に坐禅を体験して頂き、最後の法話では日本の若者4名とオランダ人2名が話を耳を傾けてくれた。4人中に仙台出身の方がいて、しかも姉妹が塩釜に嫁いでいるとのこと。この広い地球で同県人に出会うとは！若き人よ！ご無事で！

・2月6日(日) 坐禅会3日目

朝4時半開静 5時より坐禅 6時

朝課 6時半より7時まで坐禅

朝の部参加者 4名ほど 日本人女性と中国人女性の参拝者のコンビは非常に熱心に参加されていた。日本人女性も上海在住とかで、読経は中国語であった。我々の読む古い中国語の発音と現代の中国の誦経の発音が重なり合う、不思議な感覚であった。もともと小納はすぐ隣でお勤めしていたので、この不思議な感覚を味わえたのは小納だけかもしれない。

午前中は日曜日で日本寺職員も公休。

なんとなくのんびりした寺の雰囲気である。小納も特に予定は無く大塔周辺を探索。今まで屋根だけしか見たことがなかったヒンドゥー寺院を参拝。マハントと呼ばれる当地の宗教的指導者の寺院らしいが非常に荒れた印象で、今の季節は満員電車の如き大塔とは対照的である。大塔の隣の公園を散策すると、路上マッサージ屋に呼び止められる。気の良さそうな青年であったので、しばし坐禅でつかれた脚を揉んで貰う。30分100ルピーなり。日本円で2000円ちょっと。技術は良。使う器具が珍しいものであった。

午後4時 午後の坐禅スタート。昨日よりの参加者数名。人の出入りがあるので、正確な人数の把握は出来ない。日本の専門道場では当然ながら坐禅中の堂内の出入は憚られるが、この坐禅会は自由。この坐禅会において私が念願するのは釈尊成道の聖地で一人でも多くの人が坐禅を組んで貰い釈尊との法縁を深めて頂くことにある。小さいことに拘らないインドらしい自由な坐禅会で良いと信ずるものである。

薬石時に駐在僧の北河原師より東大寺お水取りの話を伺う。他宗派、特に

奈良仏教は未知の世界。興味深い話に接する事が出来た。他宗派の交流は他の宗派の良い点を学ぶことが出来るし、臨済宗の良い部分も再認識出来る。駐在僧は皆20代の若者。インドでの貴重な体験を是非とも日本での修行や布教に活かして貰いたいものである。

日本寺には無線ランがあり、インターネットが通じている。しかし、この日は電力状態が悪く、インターネットは使用不可。電波事情では無く、電力事情であることに着目されたい。噂に



坐禅会

よると盗電が多発している為、電力会社からたまに高圧力の電気を流し、違法な盗電器械を破壊するという。駐在僧の変圧機も度々壊れているそう。そう言えば、私が持参した変圧機も昨晩からカチカチと不吉な音を立てている。因みにブダガヤ周辺は、携帯電話のiモードメールは使用不可。さらに、ショートメールは受け取りのみ可能。しかし、携帯電話の通話自体はほぼ良好に使用可能。世界も狭くなったものがある。もっとも、この状態はブダガヤの電話回線の事情は小納にとって最後の訪問である3年前とさほど変わっていないようである。

・2月7日(月) 坐禅会4日目

4時半起床 5時より本堂へ 5時



大塔境内の混雑

15分坐禅 5時50分経行 6時朝課
引き続き坐禅 7時終了 引き続き朝食。

駐在僧の1人が昨日より風邪。インドの朝夕の寒暖差は非常に厳しい。来週は彼の所属寺院から参拝がある。早く体調が戻ることを祈念するのみ。

午前、日本から葬儀の連絡が立て続けに3件。幸いにして本日午前は日本寺の「電力」状況好調で、1件目の戒名はスムーズに送信。昼までに次の方の戒名を作成したものの、再び電力不安定で電波が発信されない。仕方なく大塔近くのネットカフェへ。1時間50ルピー（60〜70円）で使用可能。昨日、別のネットカフェで1分10ルピーと言われたが、とんでもない値段をふっかけられたワケだ。これだからブダガヤは油断が出来ない。「地球の歩き方」を見ても1時間30ルピーが一般的らしい。ブダガヤの町を歩いていると気安く日本語で話しかけてくるインド人が多いが、大概が日本人を店に呼び込んでリベートを貰う輩である。上手く利用出来れば通訳ともなるが、割高の買い物となる可能性が高い。しかし、通訳料と割り切ればこれも有りかもしれない。

ない。但し悪質な人間もいるので、要注意。要らないものはハッキリと要らないという意思を伝えなければ、相手の術中にはまることになる。

午後4時から坐禅、晩課、坐禅、法話で6時半過ぎ迄の予定を無事こなす。法話はお釈迦さまとラーフラの話。題から、袈裟の由来をひとしきり。人生も物も上手く活かさなくてはならないという趣旨でありました。今日は本堂一杯の参加者！晩課の段階で20名以上はいた模様である。印象に残った参加者は愛知の大学生5〜6人組。晩課から最後の法話まで参加してくれた。聞けばこれからコルカタ往きの電車に乗るとのこと。学生の楽しい旅の途中で、坐禅会や法話に耳を傾けてくれたことに感謝したい。

晩御飯はチベット人マーケット内のレストランへ。日本寺駐在僧が案内してくれたのだが、小納さすがに一人では入れぬ感じの店であった。チベット料理を口にするのは初めてだったが、とても美味しく頂戴した。今日はミロ師のおごりであった。駐在僧は現在4名。薬師寺1名、東大寺1名、浄土宗1名、曹洞宗1名の内訳。一番若い東

大寺の方は22歳。小納とは親子ほどの年齢差であるが、インド滞在歴の長い彼らは頼もしい限り。楽しい夕食の一時であった。チベットレストランの多くは酒を置いていないが、酒など無しに各宗門の話題や法式等をゆっくり話すことが出来た。日本の仏教もまだまだ捨てたものではない。若い世代にこそ、素晴らしい人材はいるのだ。因みに多くのチベット人は3月ともなれば、インド各所にある自治区に帰る。このレストランを始めとするテントは、なんと土に埋めてこの地を去るそうである。

レストランからの帰り道に結婚式と遭遇。こちらの結婚式は賑やかだ。花婿が大音量の音楽と共に花嫁を迎えに行く。どうも日本寺の後ろが花嫁の待つホテル（または自宅）。騒々しい一夜となりそう。

それにしても寺を守ってくれている当山及び幼稚園のスタッフ、頑張ってくれているようだ。寺にしても幼稚園にしても、小納が住職になって以来最も和合が保たれているかもしれない。もう10時、本日はブダガヤ入り後、最も遅い就寝である。

・2月8日(火) 坐禅会5日目

4時半起床 5時過ぎより坐禅 6時朝課 6時半より坐禅7時まで。午前中 チベット仏教を信仰しているIさんと茶飲み話。ダラムサラにも滞在した経験をお持ちの方で非常に面白い話が伺えた。インドの坐禅会に参加される方や、インドを放浪されている方の中にはチベットやヨガの修法に詳しい方が少なくない。今回の坐禅会の皆勤賞はオランダ人夫妻。小衲の法話に



バターで造った色とりどりのお供物

も熱心に耳を傾けてくれる。この方々のお顔を見ていると非常に話がしやすい。話し手は聞き手に育てられる。話し手としての小衲の育ての親は御詠歌のおばちゃん達。今日は8日だが、間違つて法話会に来ていないだろうね? この間の涅槃会コンサートが2月の法話会だからね。

話が日本に飛んでしまったが、午後からは少し休憩。自室で気ままな格好で読書をする。読んだ本は日露戦争関係の本。薄暗い部屋で2時間ほど読書すると身体が冷え切ってしまったので、暖を求めて外へ散歩する。午後2時半頃の外はやはり暑いのが冷え切った身体には心地よい。

日本寺の坐禅用の座蒲団は背の低い小衲には少し厚過ぎて、膝が痛くなつて来たので、大塔近くで小さめのものを物色。因みに法衣や頭陀袋を扱う店は多く、坐禅用の座蒲団も容易に手に入る。持ち帰ることも考慮して、綿の入っていない外側の布だけを購入する。1000ルピー也。ついでに頭陀袋300ルピー。これは大きくてたくさんポケットが付いているもの。座蒲団には日本から持参したバスタオルやT

シャツ等で高さを整える。なかなか良い感じだ! 坐禅の座蒲団は高すぎると腰は伸びて楽になるが、膝に負担が掛かる。低いと腰が曲がりやすくなるが、膝の負担は少ないし、体重を脚全体で感ずることが出来るので小衲は低い座蒲団が好きだ。学生の頃は腰が悪く高い蒲団で坐つたものだが、僧堂で一日中坐るようになってからは、低い蒲団が身体に負担を掛けないことに気付く。



光明施療院



菩提樹学園

やはり坐禅は大地から身体が生えているように坐らなくてはいけない。その為にはやはり低い蒲団が良いと思う

さて、今日も午後4時から坐禅、経行、5時晩課、引き続き6時まで坐禅、経行の後、15分程坐り、法話。今夕はミロ雲龍禪士が担当してくれた。内容は因果応報について。薬石の後、本日は日本寺名物のお風呂に入らせて頂いた。日本寺の浴室は4人程が一度に入れる大理石風呂！大理石というと贅沢に感じるが、ここはインドである。他の素材は金銭的にはかえって高額とな

る。それにしても脚を伸ばして首まで浸かる日本式の風呂は良い。素晴らしい！デンマーク人のミロさんも言うのだから間違いない。浴室は一昨年辺りにボイラーを交換したとのことで、月に1度は沸かすことになっている。月に1回だけというのは、燃料を節約している為である。

・2月9日(水) 坐禅会6日目

4時半起床 5時過ぎより坐禅 6時朝課 引き続き7時まで坐禅。午前中は大塔周辺探索。初めて大塔の裏側から敷地に入り回廊を右邊(時計回りに回ること)しながら、大塔を撮影！どのアングルから見てもこの塔は美しい。それにしても大勢のチベット僧。まさに立錫の余地も無く僧侶や信者が坐っていて、方々で経を読んでいる。丁度、小納が立ち寄った午前9時頃はお勤めの時間らしい。回廊を通ってメディテーション・ガーデンをゲートから眺める。ここは有料の為か閑散としている。良い瞑想が出来そう。次にムチャリンダ池へ。ムチャリンダとはお釈迦様を風雨から守った蛇の名前。漢訳経典では竜王と読んでいるが、インド人と蛇に対する概念が異なるから

であろう。今まで気付かなかったが、ムチャリンダ池は池に沿って周囲を一周出来る。ムチャリンダ池の背後には中国風の庭園を発見。これは新しいものようである。ムチャリンダ池をほ



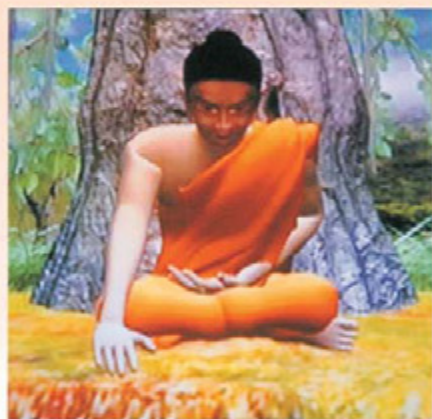
ムチャリンダ池から大塔を望む



バターランプ

ぼ一周すると無数の献灯がなされているチベット仏教の建物に着く。建物は鍵が掛けられ、照明が守られている。誰がこんなに供えたのか、驚くほどの数の照明である。改めての信仰の篤さを感じさせられる。チベット人とは異なる雰囲気の一見を見かけたので何処から来たのかを尋ねるとネパールとのこと。ネパール人は私達日本人と雰囲気気が似ていて親近感を感じる。デジカメの画像を見て大いに喜んでくれる。回廊に戻り別のアングルから写真を撮っている、チベットの尼僧が異常に顔を近づけてくる。デジカメの画像が見たいようだ。彼女の写真を撮り見せてあげると、これまた喜んでくれる。後で画像を確認すると、とても良い表情をしている。なにか懐かしい優しい笑顔。優しかった多賀城の祖母を思い出す。

境内を出て、先日眼を着けていたブダガヤ3Dミュージアムに入る。上映時間60分で料金は100ルピー。建物に入ると確認しただけで上映室が3室。客はというと私独り！日本なら確実に仕分けされそうな施設である。もっとも公共の施設かは定かでない。上映が



3D アニメ

始まると、どこが3Dなのか不明のコンピュータ画像。お釈迦様の出来はかなりほのぼのとした感じ。坐禅を邪魔するマラー（悪魔）は何故か西洋風！突っ込み満載ながら、それなりに楽しめる内容である。お釈迦様の成道物語が終わると、次にブダガヤの歴史という映像が始まる。こちらは100年以上前のブダガヤの画像が紹介されており興味深い内容である。現在は端正に整えられている大塔も、発見時には草が茫々に生え、中心の塔を囲むように林立する4本の塔もすべて倒壊していたことが画像で確認出来る。今日の大塔が復興され、仏教徒最大の聖地となり活況を呈している処には多くの人々の復興への尽力があったことを感じさ

せる貴重な映像だ。この内容で小納独りではもったいないぞ！と言っても解説が英語なので、日本人の参拝団には不向きかもしれない。

その後、先日も利用したネットカフェで寺にメールを送信。この旅に出てから6件目の葬儀である。小納インドで自己研鑽と坐禅の指導の為にそれなりに真面目に行っているのだが、壇信徒に斯様に迷惑をお掛けし申し訳なく思う。

その後、寺に戻り昼食。休憩及び読書。その後、日本寺図書館にて東京禅センター依頼の仕事をする。部屋でやつても良いようなものだが、小納の部屋は日が当たらず少々寒い。

午後4時より、坐禅、晩課、坐禅6時15分より法話。

・2月9日(水) 坐禅会7日目

4時半起床 5時過ぎより坐禅 6時朝課 引き続き坐禅7時まで 午前8時半より日本寺職員のバレーシヤルさんの運転で前正覚山へ ここは釈尊が苦行の後、一度は菩提の座と決心し坐禅を組んだものの、悟りの力を支える為には地盤が軟弱であるという理由から金剛すなわちダイヤモンドの如き



堅牢な地盤を持つ菩提樹下へと坐を遷したことで知られるところ、正覚（しょうがく）と（さとり）の前の山で前正覚山と呼ばれる。前正覚山へは車でガヤの町を経由して40分程、小納がこの地を初めて訪れた15年程前はワゴン車で小一時間要した気がするが、道がだいぶ良くなったのと運転手が良いのが相俟って意外にも早く到着した。前正覚山は以前からホームレスもどきが多かったが、参拝者の増加もあり、彼らの数も格段に増えていた。また、このホームレスに関しては、今日決定的な瞬間を見てしまった。大概、このような聖地では観光客があまり手にすることは

無いパイサと呼ばれる硬貨への両替を迫って来る輩が多い。これは小銭であれば多くのホームレスに行きわたるということなのだが、先ず100ルピーと呼びかけながら、袋に入ったパイサは90ルピー程度。最初から10ルピーは手間賃なのだという。さらに今日見た決定的瞬間とは、この両替屋がホームレスから小銭を回収している姿である。これは別に取り上げているのでは無く、ホームレスからも手間賃を取って紙幣に替えてやっているのだが、小納に写真を撮られたのに気付くと、

やや照れながらも悪びれた様子などかけらも無くカメラに向かいポーズをとってみせる。これだけ図太いとこちらも呆れてしまい、小納の手に残っていたパイサを小納に見せて「チェンジマネー」とからかって見る。すると



相手はさらに上手、「OK!」と言って10ルピー紙幣を小納に渡そうとする。小納から手間賃を取ろうというのか！前正覚山の参拝の感想がホームレス

の話にばかりなってしまったが、今日の前正覚山はタイ人の参拝客であふれていた。昨日は100名以上のスリランカ人参拝客とブータン寺で会ったが、ガヤ空港の国際空港化と東南アジアの経済発展のため、チベット僧の数には遠く及ばぬが上座部仏教系の海外からの参拝客も非常に増えているようだ。逆に非常に少なくなったのが日本人の団体客である。

午後は少しゆっくりして最後の法話の構想を練る。午後4時坐禅。出足は少し少なめの人数だったが、晩課の時点で参加者が増える。オランダの夫妻とアメリカ人の参禅経験者の方は今晩も参加しておられる。5時晩課 6時まで坐禅。経行の後に10分程坐り法話。法話の最後に記念撮影！殆どの参加者も自分のカメラを持ち出して来て、カメラマンをしてくれた加藤師の前にはカメラの山。撮影後も共に坐禅をした仲間との別れを惜しむかのようにフリートークの時間となった。日本寺のインド人の守衛さんは本堂を早く閉めたがっていた。残業ご苦労さま。

・2月10日(水) ブダガヤ8日目

午前5時40分起床 6時朝課 7時

まで坐禅

大塔へブダガヤ出立前の最後のお参り。マハーボディソサエティの隣に線香屋があり、思いがけなく白檀の線香と白檀のパウダーを手に入れることが出来た。やはり1週間も滞在すると色々な店が開拓出来るものだ。昼食の後は買い出しに出る日本寺職員のバレーシヤルさんの車に便乗してバザールへ。バザールは大塔の北側付近。小納はバレーシヤルさんと別れ、前述マハントの宮殿前を通り抜けてネイランジャラー河へ出てみる。少し歩を進めると急にスジャータ村へ行きたくなりそのまま河を渡る。ここはお釈迦様が成道前に沐浴をした河であるが、この時期は一滴の水も無い。河を渡る途中で子供達が近づいてくる。また、物もらいかと思ったがそうでもない。しかし、インドではフレンドリーに近づいてくる人間は子供と雖も要注意。この予感はずバリ当たることとなるのだが。ともかく4人の子供(8〜11歳)とおっさんは、乾期で干上がり巨大な砂場とかしたネイランジャラー河を徒歩で渡り対岸へ向かう。すると初見の祠が見えてくる。子供達の話ではお釈迦様が坐

禅をする為の干し草を買った場所とのこと。祠にたどり着くと、やや残念な仕上がりのお釈迦さまと干し草を捧げるおじさんのコンクリート像が！東南アジアから西はこういった像が大層お好きなようだ。農道というより、どう見ても他人の家の中を抜けてスジャータ村に到着。小学校の教員を名乗る男が寄付を頼みにくる。適当にあしらいながら、ストゥーパを1回りする。以前ここは小高い丘で一部レンガが露出している謎の場所だった。この丘を越えて、これより少し先のビルマ人の建てた祠にお参りしていたが、10数年前より発掘が進められ、今は綺麗に修復された遺跡が威容を誇っている。以前はストゥーパを踏み付けていたのだ。知らぬ事とは言え、ただ慙愧の念あるのみ。





スジャータ村

帰りは橋を渡ってバザール付近まで戻り、少々疲れたのでリクシャー（人力車）に乗って大塔付近まで移動する。本日で見納めとなる大塔に接するところの雑踏も何か愛しいものを感じられる。最後の晩課の後、夕食はちらし寿司を頂いた。インディカ米とは思えぬ美味しさであった。

以上の通り、ブダガヤ坐禅会は日本寺駐在僧各位、無染庵ミロ雲龍禪士の協力の下、1週間の日程を無事円成することが出来ました。誠に有難うございました。出入り自由な坐禅会である為、正確な参加者数は把握していませんが、延べ人数では100名を超える方々に坐禅に親しんで頂き、様々な国々、そして日本であれば寺で坐禅をする可能性が低いと思われる若い日本人旅行者にも熱心に法話に耳を傾けて頂きました。これも、釈尊成道の聖地ブダガヤという環境であればこそだと感じます。そして、何よりの成果は自坊では寺院運営や行事をこなすことに精一杯の小納が、1週間、落ち着いて坐禅出来たことであるかもしれません。坐禅は何処でも出来ることで、なんとも情けない結論ですが、外線も内線も来ない環境は至福の時でありました。

末筆になりますが、小納渡印中に葬儀を厳修された方々には導師を勤められませんでしたことを心よりお詫び申し上げます。

住職 成也 合掌

お寺を出会いの場に！

去る1月28日、当山において、浜松市で婚活を応援する「吉縁会」を主宰されている七鵬会の道林寺住職泉良典師、龍雲寺副住職木宮行志師を講師に迎え、「婚活を応援する会」の勉強会が実施されました。本年7月頃に、東園寺青壮年部青松会主催の「婚活を応援する会」が開催される予定です。



坐禅会

毎週日曜日朝7時

坐禅30分 体操5分 坐禅15分

気楽な坐禅会です。

墓地情報

境内墓地でございます。

永代使用冥加金30万円より。

後継者が居られなくても墓地を使用できる夫婦墓や個人墓もございます。

詩絵 成道

お釈迦様の成道は、当然ながら仏教の歴史の中でも最も大きな出来事です。よって釈尊成道を伝える経典は幾通りか存在しますが、当山の釈迦成道図はジャータカ（本生経）で説く内容が反映されています。その特徴はゴータマ・シッダルタ王子誕生から王子を護衛してきた梵天と帝釈天が画かれているところです。お釈迦様が悟りの座に着いた時、悪魔がお釈迦様に自分の領域を犯されると感じ、風、雨、岩、武器、炭火、熱灰、砂、泥、暗闇をもってお釈迦様の坐禅を邪魔します。このお釈迦様の最大のピンチに、梵天と帝釈天

を始めとする神々は悪魔の訪れに驚きに皆逃げ出してしまいます。悪魔の軍勢を前にお釈迦様はたった独りとなりますが、これによりお釈迦様はここを菩提の座とする覚悟をいよいよ固めます。悪魔は様々な武器や岩等をお釈迦様に投げつけますが、すべて花束となってお釈迦様の周囲を荘厳しました。お釈迦様は右手で自らの身体を撫で、その手を地面に着けると（触地印）、轟音が成り響き、大地がお釈迦様のこれまでの修行、特に布施行を称賛して、これに驚いた悪魔達が逃げ去り、お釈迦様は魔軍に勝利し、さらに禪定を深め夜の明ける頃に悟りに達したとジャータカは伝えていきます。ジャータカに

では、有名な悪魔の娘達の誘惑は悟りの後、5週目の出来事です。それによれば、お釈迦様に敗北し意気消沈して、地面に線を描いている悪魔に（まるで駄々っ子のようにです。）娘達が、女性の武器を使ってお釈迦様の悟りを揺るがせて見せると提案します。考え方によっては非常に親孝行な娘ですね。娘達は3姉妹でタンハー（妄執）、アラテ（不快）、ラガー（欲望）という名前でした。娘達は女性の好みは人それぞれであると言って、各自が100人の女性に分身し、合計300名の女性となつて、少女から、お産をしたことの無い女性、一度だけお産をした女性、二度お産をした女性、中年女性、老女という六段階にわたり変身し、お釈迦様を誘惑しますが、結局お釈迦様の悟りの心を揺るがすことは出来ませんでした。チベットの経典にはこの後、悪魔の娘達は老女になったまま、もとに戻れなくなつたと記載されています。この画で悪魔の娘達が炎に包まれているのは、自らの怒りや欲望により、自らが災難を受けるということを表しているのです。

実際の詩絵はこれまで紹介した五枚の絵の中でも最も重要な場面であることから、中央に配置されています。お釈迦様の眼は、その眼を見つめながら参拝者が横に移動すると、眼が参拝者を追いかけてくるように工夫されています。参拝の際にお試ください。



では、有名な悪魔の娘達の誘惑は悟りの後、5週目の出来事です。それによれば、お釈迦様に敗北し意気消沈して、地面に線を描いている悪魔に（まるで駄々っ子のようにです。）娘達が、女性の武器を使ってお釈迦様の悟りを揺るが

実際の詩絵はこれまで紹介した五枚の絵の中でも最も重要な場面であることから、中央に配置されています。お釈迦様の眼は、その眼を見つめながら参拝者が横に移動すると、眼が参拝者を追いかけてくるように工夫されています。参拝の際にお試ください。

たのしいおもいでいっぱいの1ねんかん

幼稚園だよ！

塩釜中央幼稚園

塩釜第二中央幼稚園



いもほり（第二）



お茶のお稽古（第二）



お店やさんごっこ（第二）



お店やさんごっこ（中央）



もちつき（第二）



ファミリー
コンサート
（第二）



写生会（中央）



運動会（中央）



運動会（第二）



給食試食会（中央）



成道会お遊戯会(第二)



成道会お遊戯会(中央)



書道教室（中央）



卒業制作（中央）



涅槃参観日



行事報告

◎成道会 さとりの夕べ

仙台市博物館元館長東海林恒英先生を講師にお迎えし、伊達政宗公の消息（手紙）からそのお人柄に迫る内容の勉強会が開催されました。



◎除夜法要

青壮年部青松会の奉仕により年越しそば・おでん・甘酒が振る舞われました。



◎涅槃会コンサート

涅槃会チャリティ・コンサートが深井克則さん、トニー・グッピーさんをゲストに開催されました。当日賜りました浄財11万2千円はインド・ブダガヤの光明施療院に寄付させて頂きます。



お知らせ

いよいよ平成23年度より墓地参道整備、モノレール設置、不動堂修繕事業が始まります。募財等のお願いは4月より行う予定です。モノレールに関しては基本的には寺の会計から支出しますが、その他の事業に関しては檀信徒のご協力が必要です。不景気の折、大変恐縮ですが何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。前回のご案内の通り、1口3万円の勧募となります。



行事予定

お釈迦さまお誕生お祝い 第32回 花祭りの夕

【日時】平成23年4月8日（金）午後6時

【場所】東園寺

会費 3,000円（高校生以下1,000円）

6:00 花祭り法要

法話・鶏足寺住職 平出全价師
引き続き 会食 〜ゲーム・クイズ大会〜

【主催】東園寺花園会・青松会

宗教法人 東園寺 〒985-0026 塩釜市旭町4-1

学校法人 東園寺学園 〒985-0012 塩釜市芦畔町13-51

代表役員 千坂成也 理事長 千坂秀也 花園会・会長 阿部久壽

022(362)0777 寺務所

022(362)8651 中央幼稚園

022(365)5616 第二中央幼稚園

022(364)4444 FAX

東園寺ホームページ <http://www.toenji.com>

坐禅会法話会の情報はYahooブログ「布袋の袋」

